

Eureka X

六年制通信 No.34 令和5年2月3日(金)号

効果的な復習

英語の授業で必ず習う例文に「知っていることと教えることは違う。To know is one thing; to teach another.」というのがあります。シャレた表現をしますね、英語って。普通は知っていたら教えられないのではないかと思うでしょうが、なかなかそう簡単にはいきません。面白いですね。逆の、教えられるのなら知っているはずだというのも、正しいとは言えません。諸君もそういう例を探してごらん。楽しい発見があるかもよ。

他にも、似ているようで実は違う、しかも全く違うということがあります。「わかることとできることは違う」もそうですね。学習に関して言えば「できる」を「問題が解ける」と言い換えてもいいでしょう。これも不思議と言えば不思議で、わかる、つまり理解できていればできる、すなわちその分野の問題が解けるのは当然だと思えるのですが、授業を聴いて理解したのに実際の定期試験ではできない、そんなことはしょっちゅうあります。皆さんも不思議に思ったことはありませんか。ちゃんと理解しているはずなのに問題が解けないのはどうしてかと。考えるに、これは「わかる」と「できる」の間に何か大きな溝があるからなのではないでしょうか。ということは、「わかる」段階で満足していたら「できる」領域にはたどり着けないということです。面白いもので「できる」のに「わからない」人も多いですね。英語がよくできるのに基本的な品詞が理解できていない、とか。そういう例も考えてみると楽しいかもよ。

これ、誰の言葉か忘れましたが「夢」と「現実」の間には「行動」がある、と。共通テストの前に6年生の諸君には話したのですが、英語では **The distance between your dreams and reality is called action.** と言います。直訳すると「夢」と「現実」の間の距離を「行動」と言う、ですかね。これに倣って考えてみると「わかる」と「できる」の間には何があると思いますか。「練習」、「訓練」、「やり直し」などがすぐ浮かびます。

「復習」もその一つでしょうが、復習と言うと必ず予習がセットのように並べられ、しかもどちらが大切かという議論になるようです。君は予習派ですか、復習派ですか。何度か耳にしたことがあるのではないですか。考えてみると、予習と復習は役割が全く違うのですから、どちらも大切だというのが正解ですが、「わかる」「できる」にこの二つを入れ込むと、「予習」→「わかる」→「復習」→「できる」となるのではないかと思います。ちなみに学生時代の私は完全な予習派でした。これには事情があって、生徒が私一人でしたから、私の予習の分だけ授業が進むのです。ですから否応なしに予習に全力を注がざるを得ないし、予習の段階で疑問点を整理しておけば先生の講義を受けながら同時に復習をしている感覚がありました。ところが、やはりちゃんと家

に帰って復習をしないから、講義中に理解できた（はずの）ことが定着しませんでした。「わかる」というのは実際には「わかる気になっただけ」だったのかもしれませんが。中高の時代もどちらかと言えば予習派でしたが、数学だけは復習をしました。これは授業で扱った問題を解き直すのではなくて、類似問題をたくさん解くという復習のやり方でした。これは効果がありますよ。授業の後で教科書を何度読んでもそれは復習とは言えないと思います。理系の科目は特にそうですね。

さらに、最も効果的な復習といえますか、復習した後に行うといいのが「教える」ということです。これができて初めて本当に「わかる」と「できる」が一致すると思います。「知っていること」と「教えること」が同時に可能な、二つが区別されない領域に行けるわけですね。ですからもう一度矢印で考えると「予習」→「わかる」→「復習」→「教える」→「できる」でしょうかね。この「できる」の後に生徒間で「教えあう」が加わるともっといいですね。いつも言うように、仲間がいると一人では行けない領域に到達することができます。それは「予習」から「できる」までの間に「教えあう」があるからなのでしょうね、きっと。

ちなみに話は少しそれますが、先ほど数学の復習の時に「理系の科目は」と言いましたが、文理選択について、私は以前より疑問を持っています。教科について文理の別をつけることをそろそろやめるべきだと思うのですが。日本人はノーベル賞をたくさん受賞していますが、ノーベル経済学賞はいまだにありません。あれは、経済学部を文型に区分しているのが原因だと言われています。私もそう思います。少なくとも高2までは誰もが全ての科目を習うべきだと思います。そんな日が来ますかねえ。

今週のおすすめ

・横関 大 『忍者に結婚は難しい』（講談社）

司馬遼太郎の『風神の門』はテレビドラマにもなりましたが、主人公の伊賀忍者霧隠才蔵の魅力溢れる名作です。真田十勇士の中でも猿飛佐助と霧隠才蔵は特にファンが多いでしょうが、佐助は甲賀忍者で才蔵は伊賀忍者。伊賀忍者といえば服部半蔵が有名ですが、私は『風神の門』以来霧隠才蔵のファンです。

さて、伊賀と甲賀の忍者の末裔が現代も生きており、それぞれに「指令」なるものを受け取り暗躍していたらどうなるか。しかも伊賀の男と甲賀の女が、お互いそうとは知らず結婚したらどうなるか。よくまあこんな設定を思いついたものだと感心します。恐らくブラッド・ピットとアンジェリーナ・ジョリーの「Mr. & Mrs. スミス」という映画が一つのヒントになっているのではないかと推察していますけど。敵対するスパイ組織の男女が結婚したという設定ですからね。

『忍者に結婚は難しい』はラブコメディに仕上げっていますが、謎解きもあって面白く読めました。伏線もしっかり張ってあるし、「そう来たか」と楽しめますよ。そういえば、今ドラマ化されて放送中ですよ。観てみよっと。横関さんは『再会』で江戸川乱歩賞を受賞されています。これも読んでみて下さい。

BGMは Eric Clapton の *Change the World* でした…。